

第21回アクラスZOOM寺子屋 参加者「感想」

今日は、本当にありがとうございました。
取り出し授業で使っていた「中学生のほんご」の著者の方々と話せて、とても有意義でした。また、新しい視点でこのテキストと向き合えそうな気がします。こうして、様々な先生方と交流させていただくのは、素晴らしいことですね。視野が広がる思いです。また、「子どもは文脈から物事を推測し、学ぶ力を持っている」という言葉が胸に響きます。自分も、この言葉を胸に歩みたいと思います。次回もこのような機会を設けていただければ、とてもありがたいです。

今日はこのような機会を作っていただき、ありがとうございました。
今回、参加者の詳しい自己紹介も聞くことができ、それぞれが様々な形で活動されていることにも、大変興味をもちました。もちろん、本題のテキストができた経緯や使い方の注意点や工夫（永田先生ルーム）も学びが多くありました。今回は「今、どのように教えるか」にフォーカスして、永田先生ルームに行きましたが、「今、現場で困っていること」をどうやって行政レベルまで伝えるか、という悩みもあります。志村先生や武先生のお話も伺いたかったです。
※質問というか、お願いかもしれませんが、今日、講師としていらした先生方に、今後質問をすることは可能でしょうか？

私は今小学校支援、NPOでの中学生の教科&日本語、高校での日本語（テスト前や課題があるときは教科支援も）を行っています。今日は、最初に「中学生のほんご」が作られた経緯を詳しく聞くことができ、子ども達が置かれている状況に寄り添って作られたテキストであることを深く感じることができました。実際には、集団授業で後から後から初心者が入ってくる、常にレベル差や授業進度が違う子たちの混在クラスだったり、週に一度、宿題も定着しない（出せない）子の授業だったり、現状すぐにこのテキストに特化、ということが難しいとも感じています。でもゆくゆくこのテキストを基準に授業を組み立てていきたいと思いました。

今担当している子（小学校での教科支援）は、取り出しで日本語を教えている先生と担任と私と放課後支援を少しずつつないでいるところです。あちこちでバラバラな勉強方法をするのではなく、効率的に学習スパイラルを作っていきたいと思っていたところ（でもなかなか難しい）だったので、今日のお話はとても励みになりました。

初めてのアクラス寺子屋に参加でき、とても勉強になる時間でした。貴重な機会をいただき、心から感謝の気持ちでいます。ありがとうございました。またよろしく願いいたします。

とてもすばらしい『中学生からの日本語—学校生活編—』の著者の皆様にお目にかかれてとてもうれしい時間でした。
志村さんがおっしゃっていた、「支援の多様性が問題だ」は、まさにその通りですね。多様な人材が外国籍児童生徒をサポートしてくれることのできる状況は、日本の人材の力強さとして本当に素晴らしいと思います。私はアクラスの講座で一緒にご縁で、港北区の日本語指導のボランティアに関わらせていただきました。その際、地域に日本語指導を担うことができる人材が多くいらっしゃることに、感激しました。しかし、それらの力のあるみなさんが点在していること、そこを「漂流」している児童生徒がいることを、高校を退学してく生徒に接する中で感じました。子どもたちの成長に応じた「日本語の学びの体系化」と、日本語教育に関わる人々へのその共有が大事ではないかと感じていました。ひとつの「体系」があり、それを日本語指導関係者が共有していれば、そこからドロップアウトしてしまった児童生徒も、次の段階で本当に自分にあった支援を受けることができます。その年齢にあった児童生徒への日本語指導の体系化はできないのでしょうか。それを『中学生の日本語』のシリーズが実現しているものだと知って、本日はとても有意義な時間をすごさせていただきました。

「文脈でまなぶ」「リテラシー重視」という言葉が、印象に残りました。先日、他のワークショップでも「子どもは、『話す・聞く』は自然習得できるけれど、『読み・書き』は違います」というお話を聞いたばかりでしたので、「読み・書き」を重視して日本語指導を行うことの大切さを、また認識しました。また、参加者の皆さんの現場のお話も伺うことができ、勉強になりました。参加者の中には、既につながっている方もいらっしゃいましたが、今日の寺子屋をきっかけにまた新たな繋がりができるといいと思いました。
今日訪問できなかったルームの先生のお話を伺ってみたくかったです。

今日は参加させていただき、ありがとうございました。とても有意義な時間を過ごすことができました。まだこちらのテキストが無かったときは、中学生向けの体系化した教材がなく、もどかしいことが幾度もありました。このテキストに出会ったときは、本当に嬉しかったことを思い出します。その後小学生指導が多く未だ実際に使用する機会は少ないのですが、改めて本書の作成過程や意図を著者の方々から伺うことでますます魅力があるものとなりました。このあとは、どのように使うか、が教師にゆだねられている部分だと思います。自分が指導するときは子どもが自発的に会話が作れるよう、日本語を楽しみながら習得できるよう工夫して参りたいと思います。また、ボランティアさんと共有して使用することも多いので、その時は連携して活用していきたいと思います。中学生は行事やクラスの学習補助に充てる時間も多く、テキストの時間がなかなか取れないのが実状ですが、家庭学習も促しながら自律学習へとつなげていく使い方もあると思います。

多くの方々子どもたちと向き合い、時には悩みながらエネルギーに満ちて前進している姿に心打たれました。

子どもたちがこのテキストを購入することは無理なので、著作権の関係でどの程度コピーが許されるのか、オンラインで利用するとしたらどの程度のことができるのか、ぜひ機会があれば知りたいと思います。

先生の実践と学問的な見地を結び付けてご説明いただき、日本語教育の現状についてお話を伺うことができました。大変勉強になりました。ありがとうございました。これから、実践に生かしていきたいと思います。ご著書につきましても、ぜひ、使わせていただきたいと思います。貴重な勉強会に参加させていただき、ありがとうございました。

現在直接中高生の日本語には関わってはいないのですが、これからのことを考え、参加させていただきました。現状の理解、また、言語発達の観点からの著者の作成経緯が聞けたことはとても良かったです。いずれ、この高知でも迎える現実ではないかと感じています。

大人の学習者に対する姿勢にももちろん通じることも聞かせていただきました。

「できるにほんご」からの大きな流れを感じました。ありがとうございました。

すべての先生のお話を聞けず残念です。ぜひ第2回の開催をお願いします。日本語教師同士ネットワークも必要ですが、保護者、学校、教育委員会、行政、地域のボランティアサークル等の連携も大切だと考えています。どのようにすると繋がりを作っていくことができるかお話をお聞きしたいです。

3名の著者のお話を伺い、現場に生かせるたくさんのヒントをいただきました。

今、市の教育委員会の職員として日本語教室に関わっていますが、日本語教室と通級してくる児童の担任、各学校に派遣されている日本語支援員、さらに国際交流協会で土曜日に児童生徒の支援をしているボランティアの連携が課題になっています。

昨年やっとボランティアとのつながりができ、今教育委員会に支援員や担任との連絡ツールやシステム作りを提案しているところです。

ぜひ、今後も児童生徒の日本語教育に関わっている方たちとつながり、情報交換できる場があれば有難いです。

また、NPO法人YYJの「子どものにほんごを考える会」というサークルにも参加いただき、情報交換していただけると嬉しいです。ありがとうございました。

他教材とは違う教材の特徴や作成する過程での思いなどが聞けて、ぜひ、買ってみようと思いました。ただ、分科会で、教材の部屋への移動がほとんど最後になってしまったため、教材自体のお話があまり聞けず、移動のタイミングが遅すぎたなどと残念に思いました。今回、事前に自己紹介をフォームで出したほかに、全体で、また、分科会でと3回、自己紹介がありましたが、その時間がもったいなく感じました。特に分科会では20分かかっていたため、志村先生の参加者同士のつながりという意図もわかるのですが、もったいなく感じてしまいました。先生方と参加者の皆さんのやり取りをお聞きする時間ももっとほしかったです。

3人の先生方の熱意と情熱がひしひしと伝わってくる、とても内容の濃い2時間でした。

「生きるためのことば + 成長過程」を支える立場としての責任の重さも感じました。

個人的な話で恐縮ですが、実は最近行き詰まりを感じており、「ネットワーク」という言葉がいつも以上に心にしみました。

大変貴重なお話をありがとうございました。

第2弾があれば、実践報告のような内容のお話をうかがいたいです。

.....

感想ではないのですが、ネパール語の通訳が来てくれなくなる（来てくれなくなった？）というようなお話をなさっていた方がいらっしやっただと思います。

時間が押していたので発言を控えたのですが、もしも通訳に来てもらえないのなら、翻訳アプリを利用なさったら、だいぶ楽になって良いのではないかと思います。

例えば、「多言語音声翻訳アプリ<ボイストラ>」は無料のアプリですが、翻訳は結構いい線行っているのではないかと思います。翻訳結果の逆翻訳もしてくれるので、どれくらい正しいか自分で確認することができます。学生たちにも勧めています。

わたしはネパール語は全然知らないのですが、音声翻訳も可能だそうです。

多言語音声翻訳アプリ<ボイストラ>

<https://voicetra.nict.go.jp/>

このほかにもさまざまな翻訳アプリやツールがあると思います。

その方の事情がわからないので、見当違いな発言でしたら申し訳ありません。

「全国的に統一された日本語指導の仕組みがない」というのは本当に大きな問題だと思いました。ダブルリミテッドに注意しなくてはならない、小学校高学年から中学の学習の遅れは学習者の人生を大きく左右するというのを常々感じています。その時期の言語学習は特に、「文脈で学ぶ」、「全人的なものである」ということが重要であることを改めて認識いたしました。これからも、問題意識を持ち続けて勉強していきたいと思っています。

成長期における認知発達と言語習得の関係を整理して聴くことができたレクチャー内容も、参加されたメンバーの方々の現場での活動が伺える発言も、参加できて良かったと思える充実した内容でした。寺子屋実施前に何度も打ち合わせされたとお聞きし頭が下がります。ネットワーク作りの難しさと重要性、今回参加した方々と今後も是非繋がり形式的操作期の言語支援に関わって行きたいと思いを新たにしました。今後ともよろしく願います。

今回、成長過程にある学習者にあたる「子どもたち」の日本語の習得についての基本的なところからのお話を改めて伺うことができよかったです。この分野の経験がまだ少なく、ネットワークが作られていっているところに入ってはいない状態で学びに参加させていただきました。このような立場ですが、今回お伺いした成長過程のお話子どもたちに限らず、言葉を身につけようとしている方々全てに対して言える部分もある気がいたしました。

わかりやすく、まとめられたお話をうかがえたことで自分なりにこの分野に対して気になることや補いたい知識の部分がどこなのかも気づけました。今、直接的に関わってなくても学習者さんのお子さんたちが日本でクラスケースもどんどん増えているそんな「今」に一日本語教師としてどう向き合うのか、できること学べることからこれからも続けていこうと思いました。

とてもわかりやすいお話をしていただきありがとうございました。

私が養成講座で勉強していた頃には、公立学校の中に都や県の教職員以外の人が入る機会は殆どなく、とりあえずは留学生に…と日本語学校に就職をしました。あれから17年、今では多種多様な関わり方があるのだと知り、また、皆様がそれぞれの場所やお立場で様々なご苦勞をされながら、それでも前へ前へと進めていらっしゃるパワーに圧倒されました。

私は全く関わったことのない分野なのですが、これからは日本語学校も地域ともっと関わる存在になっていくであろうことを考えると、子供たちのことも知らなければと痛感しました。

ブレイクアウトルームの残り時間チラ見して、あと30分もあるのだから余裕だと思っていたのに、志村先生のお話にならなれたら時間切れになってしまいました。あーっ！永田先生のお話がああ！せっかくの武先生とのお話のチャンスがああ！…が率直な感想です。でも、ここでご縁をいただいたのですから、近いうちにまたお話を伺えるチャンスがやってくると信じております。その際にはきっと、今回一緒できた皆様ともまたご縁をいただけたらとも信じております。

私はJSLバンドスケールにも興味があるのですが、著者のみなさまはバンドスケールをどうとらえていらっしゃるのかを伺いそびれました。次の機会にまたよろしくお願ひいたします。

今まで、主に留学生やビジネスパーソン、介護士候補者などきちんと日本語を勉強する機会がある人たちと関わってきました。しかし、最近生活者として海外にルーツを持つ人との関わりも増え、日本語の学習についてどのように対応すれば良いのか、自分にできることは何なのだろうかと考えることが増えてきました。そのような中で、この本に出会い、さまざまな立場で日本語教育に関わっておられる参加者の皆さまと話せたことは大きな学びと励みになりました。

今後、どのような形でかはわかりませんが、現在の仕事に加えて、児童生徒の日本語学習の場でも何ができるのか考え続けていきたいと思ひます。嶋田和子先生はじめが著書の皆さま、参加者の皆さま貴重な機会を本当にありがとうございました！

本日はどうもありがとうございました。教科書の著者の方から直々に教科書の使い方について教えていただけるなんて、本当に貴重な機会をいただきました。ありがとうございました。外国につながるのある子供たちへの日本語支援に関わりたいと思ひますが、果たして現場はどのような状況で、どのような課題があるのか、具体的にどのように教えているのか、など気になっていました。実際に学校現場で支援をされていらっしゃる先生方からリアルなお話が聞けて大変参考になりました。

中三になるとそれまでの取り出し授業から一斉授業になる、高校でも一斉授業ということも初めて知ったことで大変興味深く伺いました。今後、どこでどのような形で関わっていくかは決まっておりませんが、まずは地元自治体の日本語支援員に応募する予定です。今回このような形で先生方とつながりができたことを大変ありがたく思ひしております。これからもどうぞよろしくお願ひいたします。

「中学生のにほんご」を執筆された経緯や意図をお伺いでき、来年度からの使用が楽しみになりました。またCLD児を支援するために気に留め考えていかなければならないことを学ぶことができました。貴重なお話を聞かせていただき、ありがとうございました。

嶋田先生、志村先生、永田先生、武先生、「中学生とのほんご」ご著書をもとにしたワークショップに参加させていただきましてありがとうございました。ご著書を事前に入手していなかったのが、今回、お3人に分かれて別の命題でのBreakout Sessionとなった際、あえてライフストーリーをテーマにした部屋に参加しました。アクラスの寺子屋Zoomに参加して以来、さまざまな問題提起が興味深く、これまで自分自身で考えたことや論文にしようとデータを集めたり調べたりしてきたことが鋭く蘇ってきて再考を迫られる場面をたくさん経験してきました。今はその思いを形にするための覚悟を決めて動き出しているところです。これまでのワークショップで感じたいくつかのパターンの中に、「何かもやもやする」と感じる回が少なからずありました。その時はそれが何なのか判然とせず言語化することが難しいのですが、時間が経ってみるとそういう思いを抱いた回が最も自分にとって意味のあるものとなることが多いようです。そういう意味で今回は「もやもや」を何となく感じた回でした。「中学生とのほんご」執筆の経緯として、「もやもや」をまさに感じたとおっしゃっていたことも印象的でした。教科書分析を論文のテーマの一つとして準備していますのでその参考にしたいと思っての参加でしたが、体系的な教科書の有無や作成と言われたところで、「もやもや」し、先に述べた、ご著書を事前に見ていないことから参加を見送りました。私なりの判断がつかないと思ったからです。

ライフストーリーも論文のテーマとして追っているものの一つです。日本語教育に関わる中で、中学校での取り出し授業として、ブラジル、中国国籍の生徒に教えたり高校での正規の日本語授業として、ペルー、ブラジル、ベトナム国籍の生徒に教えたりしました。その中で生徒一人一人の出自、日本在住の経緯や日本語、生活環境、学習環境もろもろ踏まえて多様な、そして考えさせられる、ある特徴的な彼らのライフストーリーに胸を打たれる経験があり、それらを形にしたいと強く思ってきました。「もやもや」に出会う機会を大切に自分なりに思いを深めながら研究していきたいと決意を新たにすることができました。ありがとうございました。

申し訳ありません。失念しておりました。

テキストの使用についてだけでなく、児童の日本語教育に携わる者もつべき考え方、授業に向かう精神を改めて考えさせられました。また、自分自身の姿勢を振り返り猛省した重要な時間となりました。

一人の学習者（児童）に関わるということは、その人の将来・大きく言えば人生にまで影響を及ぼしてしまいます。ただ日本語を教えるということではなく、児童の人生も考えていく必要があると肝にめいじました。ありがとうございました。

教材ができるまでの経緯の中で、当時は中学生向けの教材がなかったというお話がありました。最初に先生方の熱意があり、時間をかけて作成していただけたことで、こうして使うことができ、たくさんの中学生や高校生が助けられていると感じました。中学生に馴染みのある実感の持てる場面、文脈で学べるように工夫されているので、子どもたちにも入っていきやすいと思いました。実際に教材を使っている先生のご質問から、学校で学ぶ国語文法と日本語文法の用語などの違いの問題があることにも気づかされました。実際の具体的な使い方のお話も聞くことができ、有意義な時間でした。また、子どもの目線で捉え学ぶ力を信じる、子どもと対等な目線に立つというお話も印象に残りました。

自分の希望ではなく、家族の都合で来日して日本の学校に入学する子供たちについては以前から関心があってボランティアや、公立の小学校での授業補助などにも当たったことがあります。ただ現在はその仕事から離れて久しく、どんな状況なのか気になっていました。

そんな折に「中学生の日本語」の出版があり、教科書の読み方を子供たち自身で推測できるように作られていることに魅力を感じていました。私自身アクラス日本語研究所でお手伝いをしていることもあり、ときどきその使い方について質問を受けることがあり、今回、参加して、皆さんの話を伺いました。

ただ、今回は使い方を学ぶというよりも、現場でいろいろな工夫をされている先生方のお話を伺って、そのことからの自身の学びの方が大きかったです。参加された皆さま、ありがとうございました。

本日は、執筆者三名が講師と言う、贅沢で貴重な研修だったと思います。

● 良かったこと

志村先生のお話の中で、テキスト作成の人選に関するお話しは、なるほどと思いました。

私は既に使わせていただいておりますが、zoom研修を通じて著者の考え方やお人柄を知ることが、テキスト選定の際に、とても参考になると思いました。

● 気がついたこと

事前に嶋田先生が参加者に関する資料送ってくださっていたので、ブレイクアウトルームに分かれてからの自己紹介の時間をもったいない気がしました。
(研修でよく思うことです。)

その代わりに、参加者独自の工夫や知恵袋の紹介などの時間に充てたら、更に充実感を得る研修になるかもと思いました。

「中学生のにはほんご」が広まった暁には、また、質問やアドバイス盛りだくさんの研修していただけることを期待しています。

本日はありがとうございました。

福井砂夕里